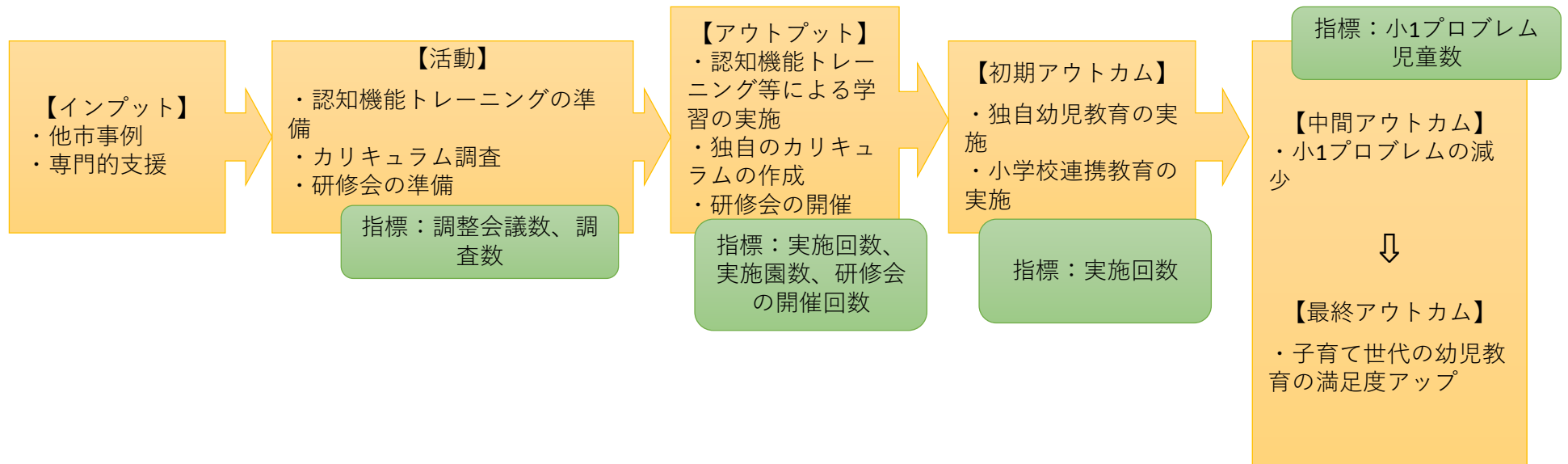


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（幼児教育の充実・幼小連携の促進[教職員研修・育成事業]）

担当課（内線）	学校教育課 島原（5617）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを利活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
・各園で小規模化が進んでいる（少子化・保育ニーズの多様化➡公立では3歳児保育、長時間保育、給食提供等） ・1園当たり（正規）教職員の数が減り業務負担が増えている。（教材研究、職員会議にかける時間の減少） ・幼稚園におけるICT化が進んでいない ・各校園での幼小交流は進んでいるが、資質・能力をつなぐカリキュラム編成までには至っていない。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・幼児の育ちを巡るめまぐるしい環境の変化等に対応しながら、質の高い幼児教育 ・保護者、関係機関・部局と連携した切れ目ない支援 ・保幼小接続カリキュラムの必要性について理解を図り、その取組の充実（施設類型を超えて、つながる） ・ICTによる教職員研修、子ども同士の交流、幼児の体験の補完、拡充、保護者との情報共有が向上、連絡の正確性が向上（教職員間、保護者へ） 【成果に向けての各年度の進め方】 (R5) 助言体制による園内研修の充実 (R6) 研修体系の整備と研修内容の充実、 (R7) 保育者間、幼稚園・保育所・認定こども園の相互連携の促進 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・幼稚園支援コーディネーター、幼児教育アドバイザーからの指導助言（各園・通年・各園の実態に応じたアドバイス） ・幼保小の研修会（幼小教育の連携を考える委員会）開催	
R 6 年度の事業費（内訳）			
学校教育課 （報償費）幼小教育の連携を考える委員会 講師謝礼 20,000円 幼保こ小つながる会議研修会 講師謝礼 20,000円 （消耗品費）幼小教育の連携を考える委員会 消耗品 11,000円 学校管理課 ルーター使用でWi-Fi環境を設置、SIMカード対応			
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標		成果・指標が未達成の場合の取扱い
・幼保こ小つながる会議 研修費 20,000円	・ICTを活用した活動の事例 ・認知機能強化取組の実施園数 2園（2021）→5園（2022）→13園（2023） →21園（2024）全園実施		幼児教育の質の向上（ICT化も含む）、保幼小連携国の動向としてやるべきことであるため、なし

【R 6 年度】重点目標の取組・ロジックモデル（幼児教育の充実・幼小連携の促進[教職員研修・育成事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【R 6 年度】重点目標の取組・評価シート①（幼児教育の充実・幼小連携の促進[教職員研修・育成事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

おおむね
達成

- ・ 幼児の育ちを巡るめまぐるしい環境の変化等に対応しながら、質の高い幼児教育
- ・ 保護者、関係機関・部局と連携した切れ目ない支援
- ・ 保幼小接続カリキュラムの必要性について理解を図り、その取組の充実（施設類型を超えて、つながる）
- ・ ICTによる教職員研修、子ども同士の交流、幼児の体験の補完、拡充、保護者との情報共有が向上、連絡の正確性が向上（教職員間、保護者へ）

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

おおむね
達成

- ・ 研修体系の整備と研修内容の充実

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 公民の幼児教育施設 合同での幼児教育研修実施
- ・ 【6月 幼小教育の連携を考える委員会】
- ・ 【6月 校園長研修会と幼稚園長・教頭・主任合同研修会の合同研修会】
- ・ 【7月、10月、11月実施、幼稚園教員研修会】
- ・ ・ 幼保こつながる会の開催 実施
- ・ 【6月、2学期、3学期】
- ・ ・ 泉南地区・大阪府幼児教育アドバイザーがつながる会議 年間3回

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
	小1 プログレムの相談をうけた数	人	—	—	—
	研修会の開催回数	回			17（幼稚園主任会を含む）
	認知機能強化取組の実施園数	園	2（R3）	21（R6）	21

【R6年度】重点目標の取組・評価シート②（幼児教育の充実・幼小連携の促進[教職員研修・育成事業]）

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 幼児教育アドバイザーからの指導助言
（各園・通年・各園の実態に応じたアドバイス）

■ 課題分析

- ・ 昨年度に引き続き、府から認定されている幼児教育アドバイザーが産育休のため、市内のアドバイザーの数が少ない。アドバイザーがいる園では役割を果たしているが、市内の園に浸透させるため、人数の確保やアドバイザー同士がつながる機会があればよい。

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 幼保こ小つながる会議の実施や幼小教育の連携を考える会の研修、教員研修会などの既存の研修会に、保育所、民間こども園を巻き込みながらの研修や情報交換の機会を増やす工夫をしている。研修を通して、互いの教育の相互理解、こども理解、教師の資質向上が期待される。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 国の「幼保小架け橋プログラム」を受け、令和5年度から市内の幼保こ小つながる会議を実施している。そのなかで、令和6年3月に「岸和田市幼保こ小接続カリキュラム」が完成した。
- ・ 今後は、「岸和田市幼保こ小接続カリキュラム」を市内就学全施設及び小学校への周知、市内全域への展開に向けて、組織的な交流、保育・授業参観の機会を大切に、施設類型をこえた教育間交流が各地域ごとで主体的に展開されていくよう市として支援していく。